

おちんちんさん



おちんちんさん

R-18
成人向け

「天使とおふろ！」 夜歌

響にー
一緒にはいろ

はむ
お背中お流しします

ライブ手伝って
くれたお礼

そ…そら!?
どうしたの??

そ…そっか

前も洗います

ちよ…
ちよつと待って!?

はむ
届かない

ぺたんこだけど
柔らかい身体と
くりくりつとした
小さな乳首が…っ!!

かほっ

やっや

くっ♡

くっ♡

じゅ
じゅ

ちゅ

ここ

響にー
おちんちんはれてる？

その…これは…
うあつ…！

響にー苦しそう
おちんちん
おたすけする？

うん…
うん…

おちんちん
なめるの？

はむわかった
がんばる

そうだよ…
傷舐めたら
治ると一緒なんだ…



はむはむ
響にー治りそう？

ああ…
いいよそら
そのまま続けて…

うっ…!!
射精るっ…!!

ドロツ

ドロツ

んんっ!?

ビク

ビク



高学年のおくちまんこ
体温高くてめちやくちや
気持ちいい…っ!!

うあ…!?!
何も教えてないのに
舌を絡めてくる…!!

くちゅ♡

くちゅ♡

しかも動かし方が
絶妙すぎる…!!
天性のリズム感…
おくちえっちの天才だ…!!

はあ

はあ

はあ

響にーだいたいじゃうぶ?
なんか白いのでたよ…?!

ドロツ

ドロツ

ドロツ

そらのおかげで
おちんちん治ったよ
ありがとう。

お礼に今度は
そらの身体を
洗ってあげるよ

あ…あつ…
なにこれ…?
おまたじんじんする…
さつきよりすごいよ…?

そらはここ
触ったことないかな？
気持ちいいでしょ？

うん…きもちいい…
響にーもつとして…?

響にー
くすぐりたい…

んっ…それ変…
頭までビリビリくる…

あつ…あつ…!
響にー…
おしっこでそう…

いいよ
そのまましても
お風呂だから大丈夫





あ……ん……

はあああ……

そら
おしっこ我慢してたの？
いっぱい出てるね

しゅあああ？

響にー見ないで……
ちよっとはずかしい……

ちよろ

ちよろー

そこに手をついて
おしりを向けて

おしっこ
きれいにしてあげるね

おに、

ん……

ちよろ♡

ちよろ♡

あ……あ……！
響にー……おくちす……
さつきよりきもちいい……

ちよろ♡

ああ……！
なにか入ってきてる……
舌？あ……ああ……

……

ちよろ♡



あぁあぁあぁ!!

じゃあもつと
きもちいいもの
入れちやおう

響にー
おちんちん…
入っちやつたの…?

●学生なのにオトナ?
わたし…すごい?

そうだよ
これでそらも
もう大人だね

すごいすごい
だからもうちよつと
頑張っちやおうか

あつ…あつ…
おなかの奥ずんずんって…
あつ!!あつ!!

スリッパッ

スリッパッ

スリッパッ

スリッパッ

スリッパッ

スリッパッ

スリッパッ

はっ

スリッパッ

はっ

はっ

はあ

はあ

はあ

びく

みちの

みちの

びく

あっ♡あっ♡

響にーも
きもちいいの...?
また白いので...?

そらは軽いから
オナホみたいだね！
天使の生オナホ
あつたかくていい具合だよ！

ズッ

ズッ

ズッ

ああ気持ちよくて
もう出そうだ！
今度はそらの膣内に出すよ！！

ズッ♡

ズッ♡

ズッ

あっ！
ああああ〜♡♡

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ





はむ

はむ

はむ

はむ

はむ...
きもちよかった...

ねー響こー
おなほ...もっとしゅわっ♥



こっともおこまい
描いた人：みさな



だめだった...

細い...

よわぁぁぁ

おあぁぁ

と
んんん

わんわん

んんん

んんん

響にー
服脱がないと
お風呂入れないよっ

ぬぎっ

はぢ
響にー
おこまりっ

おちんちんさん
おたあけある？



はあ
実はこんなものを
用意しました

きゅん



きゅん



きゅん

きゅん

はあ
こーあるとおちんちんさん
気持ちいいって勉強した

きゅん



きゅん

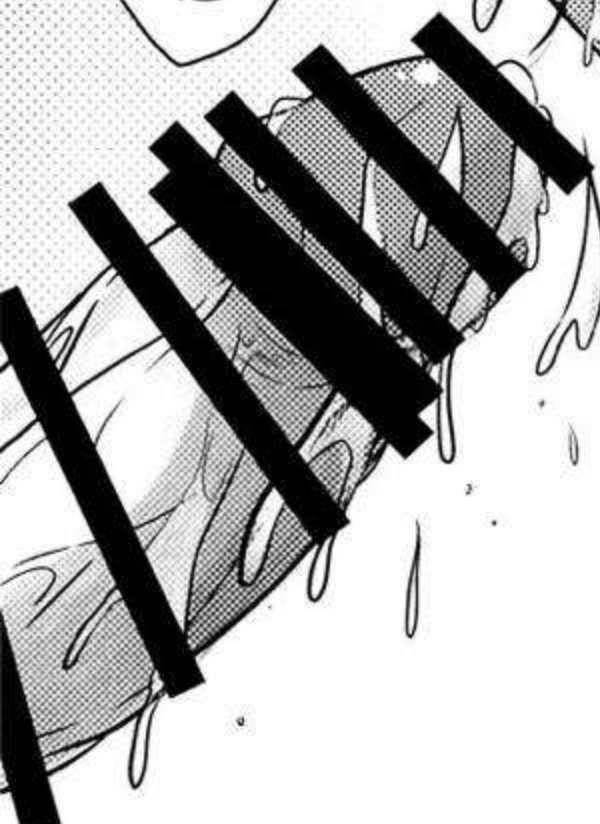
きゅん



つはほ

おおおっ

たしやとていまして



びるびる



はあ
でもおちんちんさん
まだおっきいまま

びるびる

びるびる

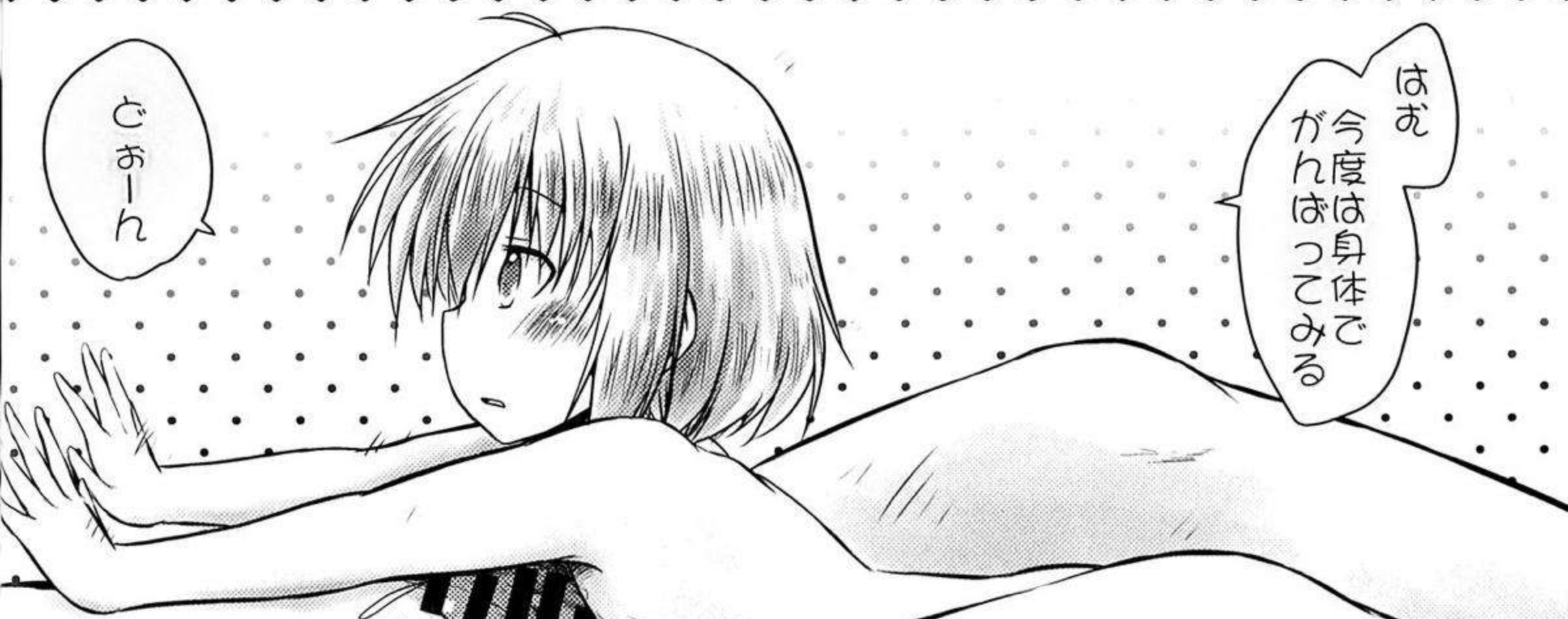
ぬるぬるしるる
ちよこいばなにいさ





ひびーん

はあ
今度は身体で
がんばってやる



またあんなっ！！

こーやって
ぬるぬるするの
気持ちいい？



響に
おんか
ちんか
ちんか
おんか
おんか
あはは
んいさ
ががあ
: : ぴい
へいし
んびい
: : しこ
こ

はあ

はあ
はあ

あ
す

あ
す
あ
す
あ
す





あゝあゝ
あゝあゝ
あゝあゝ
あゝあゝ
あゝあゝ
あゝあゝ



おちんちんさん入れると
もっこあぶいっつ



おんか...あぶかった
ふわふわした

おしっこ...
ごちやった...





おちんちんを
しめこ
しめこ

響のこー
しめこ
しめこ

おの



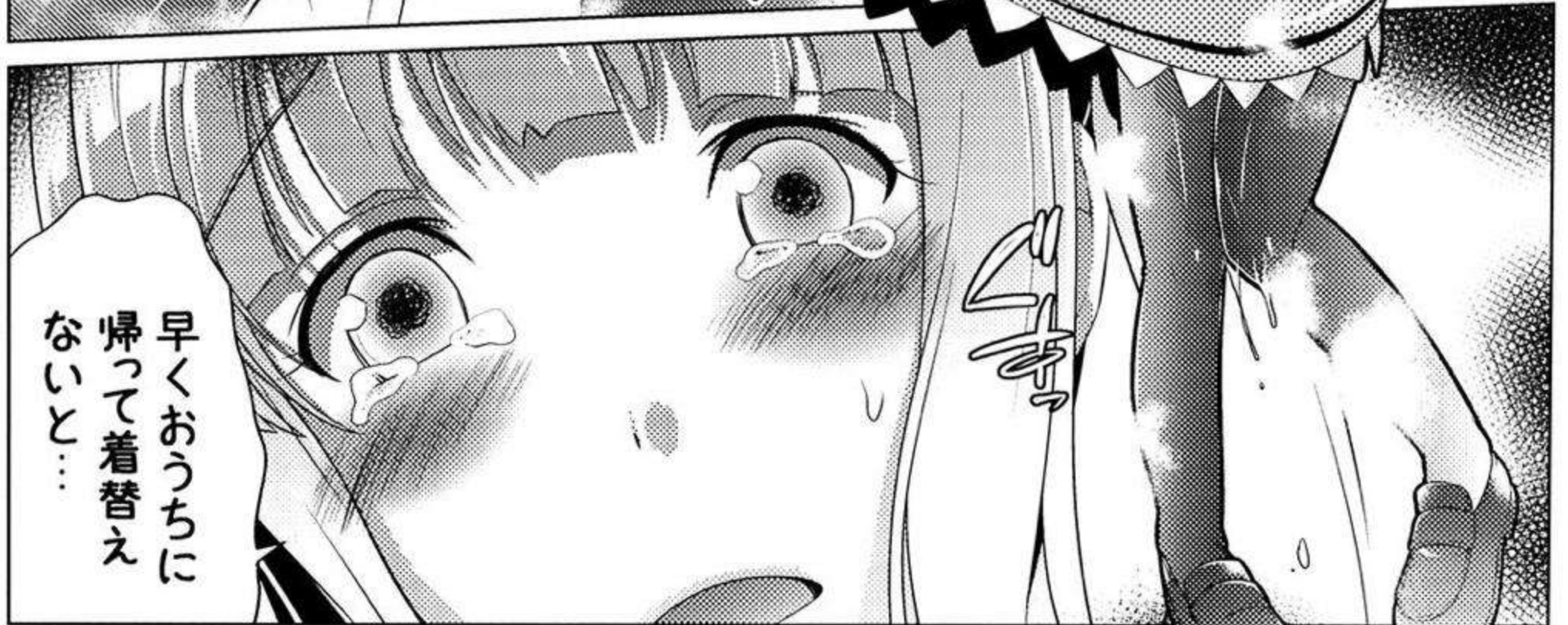


おちんちんさん
またおたあけあるこ



いっごも
おたすけ









んっ……ミ

~~~~~ミ！



はは  
は……

じゃらねら



響さん！  
本当にありがとうございました！！

これで安心して  
おうちに帰れます！



あっ



さて……

僕も帰



天使は歌う。画面の中で。

いつもの一日になると響は思っていた。

「はむ。ここは響にーとぞみたんが『えっち』  
をしなければ出られない部屋です。これは厳正  
なる勝負の結果なのです。響にーが楽しむまで、  
この扉は開きません」

とそらに言われ、服を全て脱がされた響。部  
屋に押し込まれると、そこには響同様、一糸纏  
わぬ姿の希美がそこにいた。

「え？ ええええええええ！？」

♪

いつものリトルウイングの地下室。普段は楽  
器の音が賑やかな部屋が、今はしんとしている。

「……………」

何十分ほど経っただろうか。二人は背を向け  
合い、呼吸の音すらも殺している。どうやら希  
美はじゃんけんにも勝ってしまったことで、ここ  
にいるらしい。

「ね、ねえ響、絶対こっち向かないでね……………」

（おしっこ行きたい……………！）

学校にいる時からずっと、我慢を重ねてきた  
おしっこは、希美の膀胱内で暴れ始めていた。

「…………絶対、ダメだからね……………」

響の背中に柔らかい感触がした。一枚の羽根  
がふわりと響の背中に落ちたように。

その正体に響はすぐに気がついた。

（二つのこれってやっぱアレ、だよな……………）

響の背中に二つの柔らかいモノ。決して大き  
くない、ピンと張った二つの柔らかいモノ。

「希美……………」

「響…………ダメ、こっち向かないで…………お願い。

ちよつと…………ね」

震える声で希美はぎゅうと、響の背中に身を  
預けた。互いの胸の鼓動がはっきりと聞こえ、  
緊張感が増す。

「希美、トイレ…………我慢してたり、する？」

かあ、と希美は顔を紅潮させた。

（ああもう！ 意識させるから、一気におしっ  
こ出ちやいそうになったじゃない！）

もじもじ、そわそわ、明らかなおしっこ我慢  
モードに入った希美の雰囲気を感じた響は立ち  
上がって、開くはずのない扉の前に立った。

「そら！ 潤！ もういい！ 開けてくれ！」

その声に希美は驚いたのか、背中から跳ねる  
ように身体を反らすとまた大きく震わせた。

（おしっこが…………もう…………出ちやう…………でも

…………響の前でおしっこなんて絶対できない！  
それだけはダメ！）

そう心に強く誓った希美だったが、

「…………ダメ！」

と希美が叫ぶ。脆い紙を勢いよく破るように。

「希美！」

中腰の体勢のまま、希美が身体を細かく震わ  
せる。

しゅぱつと、小さな音を出して。希美の細い  
脚の隙間からおしっこが少し落ちた。

「あんたが…………あんたが大きな声なんて出すか  
ら…………おしっこちよつと出ちやつたじゃない…………

…………！」

（どうしよう…………響の前でおしっこ少し漏らし  
ちやつた…………。恥ずかしくて死にそう…………）

ほたり、ほたり、とおしっこが垂れて、希美  
の音が湿る。響はなんとなく察しがついていた  
のだが、後ろを振り向くことは出来ずにいた。

「うう…………ひつ…………」

本当は大泣きしてしまうくらいショックだっ  
たのだが、希美は小さな乳房に隠したプライド  
で細い細い一本の糸でなんとか理性の形を留め  
ていた。

「…………」

響は黙って振り向いた。その目はまっすぐ、  
希美の瞳に向けられている。

（希美っていつも元気でかわいいけど、なんだ  
か雰囲気が違うのか、もっともっとかわいく見  
える…………。おしっこをしてしまった希美だから

…………）」

…………）」

…………）」

…………）」



こそこんなにかわいいのか……?)

「わっ! ちよつと! 本当にこつち向かないでつて!」

希美も立ち上がり、一步、二歩と後ずさり。足元の小さなおしっこを池をびちやんと踏んだ。だがそんなこともあまり気にしていない。それどころじゃない、どこか普通じゃない響の雰囲気、どこか普通じゃない響の雰囲気、どこか普通じゃない響の雰囲気に懐いている。

「うう、ん……」

また少しおしっこをちびつてしまう。吸収されるべきばんつがないため、おしっこはそのまま床を叩く。

おしっこが少し出た、という希美の言葉を聞き、響の血が沸く。自分のモノがこれでもか、というほどに反り返り、自然と鼻息も荒くなつてしまっていた。

「希美……」

ふらふらとしながらも、ゆっくりと希美に近づく。日は虚ろだが、まっすぐとした足取りで。

「響……」

希美は若干の恐怖があった。

「希美……」

一気に希美との距離を詰め、希美を抱きしめた。

「え……? きよ、響……?」

希美にはいきなりの響の行動が理解できなかった。

つた。さつきとは違う驚きのせいか、響に抱かれたまま、溜まりに溜まっていたおしっこを漏らした。

希美から溢れ出る、おしっこの六割はばしやばしやと床に叩きつけられ、残る四割は、響の脚を伝っていた。

「温かいな、希美のおしっこは……。——僕、もう……」

ずつと響の身体の一部が生理現象によって大きくなってしまっている。爆発寸前の状態だったが、希美のおもらしをトリガーに完全体になつてしまつた。

いきり立ち、硬くなつてしまつたモノは、希美の腹に当たっている。その正体に希美はなんとなくだが気がついてしまつた。

(これってアレよね、響の……。けど響に抱きつかれて、嬉しいのに、なんでおしっこしちゃつてるしこんな時なの)

「ゴメン、希美。希美がかわいいから……」

「そ、そーよね。かわいいだなんて……あ、当たり前じゃない……」

満更でもない表情で希美は身体を抱く響を受け入れ、自分よりも大きな背中に手を回し、裸のまま抱き合つた。

もう希美には羞恥心が薄れ始め、普段の優し

く大人しい響には変わりないのだが、どこかギラついているような、そんな目をしていても、希美は気がついていない。

だが希美には、今互いが裸で抱き合い、興奮している響が何を求めているか、そこまではまだ、わかっていなかった。

「本当にかわいいよ、希美」

優しく、頭を撫でてから、ふわりと柔らかな布団に寝かせるように希美を横たわらせた。

そのまま響と希美はキスをした。

軽く唇を合わすだけの優しいキスでも、今の響と希美にはアツいモノに感じていた。

「響……だいすき……」

希美は響の胸元に顔を埋める。二人のたつた一言が、二人を燃え上げさせた。

「んっ」

響はもう一度希美にキスをした。希美は幼さを残す白い笑みながらも艶やかに笑みを浮かべた。

(嬉しい……)

そんな希美を見て、響のボルテージが一段階上がる。

(もういいんだよな。希美はOKということなんだよな)

響は希美の小さな胸も揉む。ゆっくり優しく、愛でる。



「んんっ……なんだか、変な感じ、ね……」

希美は三人の中ではまだ発達している方だが、それでもまだ小さな身体で、愛らしく、いじらしく反応する。

（なんてかわいいんだ……）

その反応は響のボルテージをまた一段階上げた。

ぺろり、と希美の乳首を舐める。まだまだ未成熟で色も薄く、妖しさも出ていないのだが、均整の取れた希美の肢体と合わせ、一人の男を発情させるには十分すぎるモノと言えた。

「あっ……響……そこ、なんだか……ダメ……」

希美にとって初めての体験だった。くすぐつたいながらも身体の奥から湧き出るような甘い波は、すぐに希美を取り込んだ。

（希美が感じて……）

響の舌の先が希美の乳首に当たるたび、希美がびくびくつと声を押し殺すが、身体は反応する。

（なにこれ……えっちな感じになっちゃう……）

まだ乳首を舐められただけなのだが、希美の目は少し潤んでいる。響はその目に、見惚れてしまっていた。

「わ、私だけじゃダメだから……」

希美は身体を少しずらし、響のモノを目の前

に待ってきた。

（すっごい大きい……。ちよつと怖いけど……）

ぱくり、軽く啜えた。こんなことも、どうすればいいのかわからない。だが、懸命に啜え、舐める姿は、ベースを弾いている時同様、切羽詰ったような表情を浮かべている。それが返って魅力的にも感じられる。

「こ、こふえでひーのかひあ……？」

拙く、ただなんとなく『こうしたほうがいいのか』と考えながら、希美は響のモノを刺激する。

「気持ちいいよ、希美。なんだろう、ふわふわした気持ちになれる。どんなメロディよりもずつと」

その言葉に希身も気をよくし、全く知識がないのにも関わらず、自然と身体が動いていく。

「そう……？　なんだかうれしーわね……そんなにはつきり言われたら……」

いつものパワフルな希美とは違い、しおらしく、一女性として、響のモノを触る姿は艶やかに、青系の色が似合う希美が、今はピンク色に染まっていた。

「そのまま、啜えたまま、動いて欲しい……」

響ものつてきたのか、希美に乞う。

「はむ」

そらの口癖のように、声を出しながら響のモノ

ノを啜えた。

希美も完全にその気に入っていた。なにより、自分がわからないながらも、出来る限りのことをしていたら、響が喜んでくれた。このことがなにより嬉しかった。

「もう我慢ができない。入れても……いいかな？」

「ええ……まだ……心の準備が……」

希美は戸惑った。響のモノが自分の割れ目に入るなんて、想像ができなかった。

「……」

黙って響は希美の割れ目に手を伸ばした。

当然だが、まだ毛も全く生えていないつるの割れ目に、男にしては細い響の指がなぞる。（すっごい……まだ小さい身体なのに、こんなに濡れているなんて……）

希美の割れ目からは甘い汁が滲み出ている、その汁を伸ばしたり、泡立てたりするかのようにくちゆくちゆと音を立てて希美の割れ目を外中とリズム良く刺激していく。

「んっ……あっ……」

「気持ちいい？」

響は少し、いじわるに聞いた。

「……うん。気持ちいいよ、響……。あっん……」

響のいじわるも希美は気が付かず、甘酸っぱ



く笑みを浮かべた。そんな希美は声を押し殺しきれなくなり、甘く蕩けるような声が漏れ始めて、ぎゅつと響の手を握った。

響が指の動きを強めると、それに応じて希美が未知の快感に支配されていく。全くトゲのないすべすべとした素肌は汗ばみ、吐息にも湿り気が帯び始めている。

「響う……、なんだか……私、変よ……えっちな感じなの……だから……」

はあはあと呼吸を乱し、片方の腕で自分の目を隠した希美が響に何かを求めた。

「うん……。痛かったら言っつてね、希美」

響は一つ呼吸をしてから、希美に覆いかぶさり、自分のモノを希美の割れ目に挿入した。

「……っ！」

予想以上の痛みあったのか、希美は全身をぎゅつと硬直させた。それに気付いた響も抜こうとしたが、

「だいじょぶ、だから……。そのまま、おねがい……」

と言われ、無言で頷いた。

愛くるしい子供らしさと、情欲を掻き立てるような女性の色気。その二つが混ざり合った希美は、とても美しいモノだった。

その一言で響のボルテージは最高潮に昂ぶり、腰が自然と動き始めた。

「……！ あっ！ んっ！ これもきもちいいの……！」

希美もそれに応えるように桃色の声を上げた。一突きごとに高まる体温。互いに握られた手にも力が入る。

「響……！ 響……！」

希美の顔は幸福感に包まれていた。響も今は、今だけは何も考えず、ただ無心で腰を動かしていた。ただ『気持ちいい』ということを求めるかのように。

リズムカルにかつ、強く、突く。

次第に希美の顔がまた紅く染まっていき、

「響！ 何か……何かきちゃう！ おしっこでちやいそう！」

響は無言で、腰の動きのスピードを上げた。頭の中に希美の言葉が入ってこない。

「あっ！ あっ……！ ああああああ！」

希美が果てた。大きな声を上げると同時に響はモノを抜いた。

「あ……あ……」

じよろじよろと音を立て、希美はおしっこをまた漏らしてしまった。

（気持ちよくておもしろしも気持ちいい……）

希美は涎を垂らしながら、イッた後の幸福感に包まれて、おしっこを漏らし続けていた。

♪

「はむ。響にー、いい顔」

「わにや……何をしていたのですか？」

「それは……」

響は言葉に詰まった。まさか希美とえっちなことをしていた、なんて言えない。そう思っていた。

「はむ。ぞみたんもなんだか、おとなっぽくなつた……？」

「わにや、ほんとだ」

「それは……」

希美も言葉を詰まらせた。みんなが大好きな響とえっちなことをしていたなんて。

そして二人でアイコンタクトを送って、

「ひみつ」

と、答えた。

——今日も、天使は歌う。響の目の前で。



# あとがき。

はむはむっみさなです。  
今回はくーちゃん本です。  
前回廻たん本でしたが二人して  
はっきょーした結果、くーちゃん本が  
出ることにないましたっ  
はむっこてもいいっ

次出あときはぞみたん本  
だしまあよっ！  
ろんともあぶく  
いいであっ

じたはた  
ころころ

じっけん…



はむ、夜歌だよ。  
前回潤たん本を作ったけど、  
我慢できなくなってそらたん本も  
作ることにになりました。

そらたんやばいっす。可愛すぎます。  
ぞみたん引き止める時のシーンとか！  
島でのライブで歌うシーンの笑顔とか！  
それなのにこんな内容になってしまい…  
おかしいなあ？

二人分本出したんだからぞみたん本も  
絶対出しますよ！  
天使の3P！は最高だぜ！！



この度は天使の3P！合同にお誘いいただきありが  
うございました！

サークル『小林おかし』の小林ゆーりと申します。  
希美と響。えっらどしないと出られない部屋で……  
というお話です。

希美の生意気そうでも脆そうなところ、いじめたく  
なります！！！！

正直、文字数が足りない！もっと書きたい！もっと  
書けた！という思いがあります……！

なので次があれば是非とも……。

おしっこ！

小林ゆーり

ついったーID @kobayasiokasi

pixivID 19771117

天使の3P本だと思ってたら  
そらタン本と知らされたのは  
め切1週間前で  
もう修正不可能でした……

なのでココで  
そらタンを描いて濁す。



@るし/御乱ノ栖本佐





次は絶対×希美が  
メインなんだからね!  
とみたん  
もみちん  
ちゃん  
とみたん  
もみちん  
ちゃん

# お く づ け

発行： 朝月堂 + Snow Ice  
発行日： 2018年01月21日(コミックトシジャー31)  
印刷所： サングループ 様  
メール： inofsnow@gmail.com

描いた人：  
夜歌 (朝月堂)  
H D ⇒ <http://blog.asatsukido.net/>  
pawoo ⇒ [https://pawoo.net/@youta\\_1045](https://pawoo.net/@youta_1045)

みさな (Snow Ice)  
Twitter ⇒ <https://twitter.com/sayamiya337>  
pawoo ⇒ <https://pawoo.net/@misana>

るし/御乱/栖本佐  
H D ⇒ [http://blog.livedoor.jp/abyss\\_gate777/?blog\\_id=1812696/](http://blog.livedoor.jp/abyss_gate777/?blog_id=1812696/)  
Twitter ⇒ <https://twitter.com/rushi1107>

小林ゆーい(小林おかし)  
PIXIV ⇒ <https://www.pixiv.net/member.php?id=19771117>  
Twitter ⇒ <https://twitter.com/kobayasiokasi>



おうちんさん  
おたすけする？



朝月堂  
&  
Snow Ice